

平成15年度病虫害発生予察情報速報第2号

八丈島におけるトビモンオオエダシャクの発生状況について

1. 発生状況

- (1) 島内数カ所に設置している誘蛾灯（八丈支庁産業課設置）へのトビモンオオエダシャク成虫の誘殺が最近5年間（2000～2003年）では多く推移している（表1および図1）。
- (2) 3月第3半旬には中之郷の誘蛾灯に101頭が誘殺された。1トラップあたりの誘殺数としては1999年以降最大である。

2. 今後の注意など

- (1) 八丈島におけるトビモンオオエダシャクは数年から数十年の間に大発生（異常発生）することが知られている。ここ最近では1993年（平成5年）に成虫の異常発生と1997年（平成9年）夏季の幼虫の異常発生が記録されている。
- (2) 本年のように誘蛾灯に誘殺された成虫が多いからといって、直ちに春以降の幼虫の異常発生につながると考えることはできないが、今後の成虫誘殺数の推移や幼虫の発生状況については十分注意する必要がある。
- (3) 成虫は年1化で早春に羽化し、産卵された卵塊は3月中旬～4月中旬にかけて孵化する。幼虫はスダジイなどを食害して7～9月には老熟して土中で蛹化する。
- (4) 幼虫は多食性で、口べなど観葉植物等への被害が過去にも発生している。圃場周辺で多発生が認められる場合は成虫や幼虫の施設への侵入阻止や薬剤散布等の対策を講じること。防除薬剤については表2を参考に飛散等に注意して使用すること。また、薬剤の効果は若齢幼虫期に優れるので、できるだけ早期に散布すること。
- (5) 今後の発生推移や防除に関しては八丈支庁産業課および八丈島園芸技術センター、病虫害防除所などに問い合わせのこと。

表1. トビモンオオエダシャク成虫の誘蛾灯への誘殺数（誘蛾灯1台あたり/半旬（5日））

	2月						3月						4月						合計							
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6								
1998年				1.4	61.2	90.4	100.6	27.2	4.4	84.2	79.0	304.6	19.4	1.2	0.0	0.0							773.6			
1999年	0.0	2.0	1.0	6.0	3.0	11.7	12.7	19.0	18.8	15.0	4.8	0.3	0.0											78.5		
2000年				1.2	0.8	2.6	5.2	10.6	10.4	7.8	10.0	8.8	13.0	7.6	1.8	0.8	0.0	0.0							80.6	
2001年				0.0	1.2	1.2	1.2	1.6	1.8	2.8	9.2	3.8	7.6	9.3	1.8	2.4	0.8	0.5	0.0							42.6
2002年				0.2	1.2	3.4	1.4	1.6	8.6	6.6	5.8	1.6	0.8	0.6	0.4	0.0	0.0							32.2		
2003年	0.8	0.8	0.5	0.5	0.3	1.5	1.3	3.0	1.8	2.8	4.5	7.0	4.0	2.3	1.8	0.0	0.3	0.0							32.8	
2004年	0.5	1.5	3.8	8.8	8.5	7.0	4.0	46.8																	(80.8)	

各年次により誘蛾灯の設置場所（末吉、中之郷、三根、大賀郷地区などに設置）や設置数は異なる

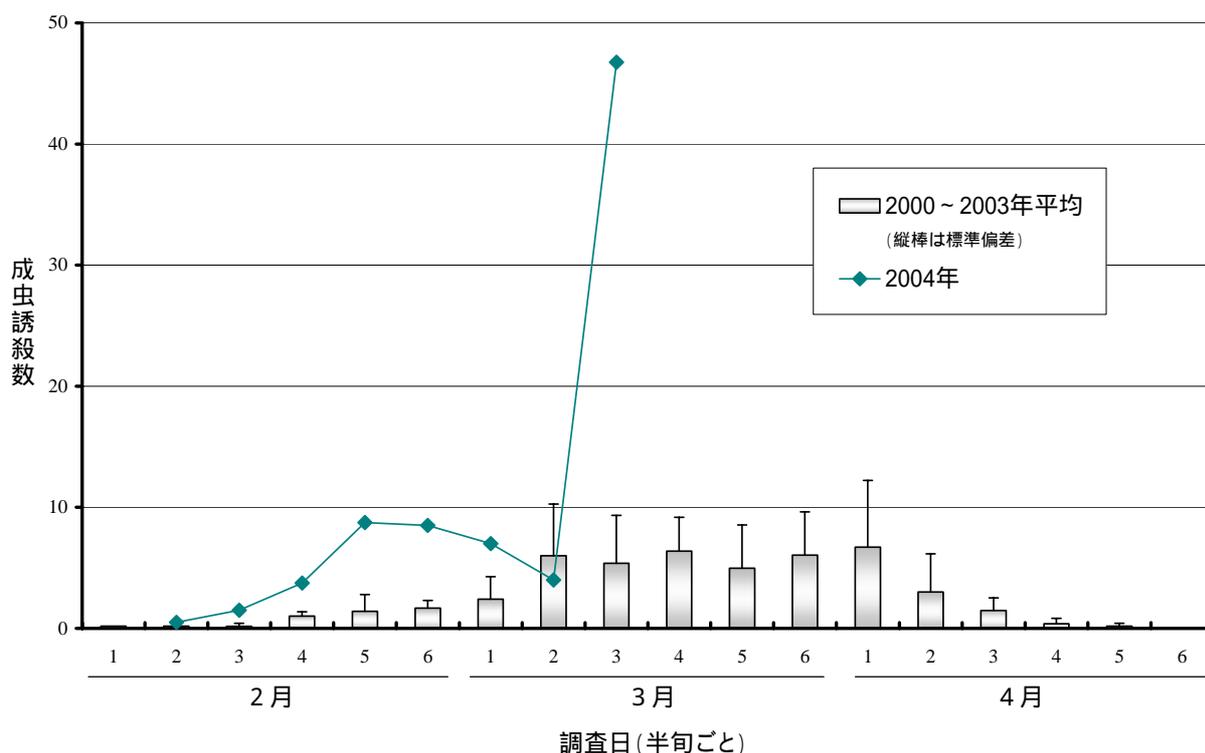


図1 . トビモンオオエダシャク成虫の誘蛾灯への誘殺数

表2 トビモンオオエダシャクに対する防除薬剤

薬剤名	薬剤の系統	使用回数	希釈倍率	登録内容
バシレックス水和剤	B T	4	500 ~ 1000	フェニックス・ロベレニー, 樹木類(木本植物), 発生初期
ダイポール水和剤	"	4	500 ~ 1000	つばき, 発生初期
トレボン乳剤 (エダシャク類での登録)	合ピレ	6	4000	樹木類(木本植物), 幼虫発生期
スミパイン乳剤 (エダシャク類での登録)	有機リン	6	1000 ~ 1500	一般樹木(林木), 若令・中令幼虫期

.....

八丈支庁産業課 tel 04996-2-4514
 八丈島園芸技術センター tel 04996-2-0042
 病害虫防除所 tel 042-525-8236
 病害虫防除所ホームページ <http://www.jpnpn.ne.jp/tokyo>
 E-mail アドレス S0200303@section.metro.tokyo.jp